

北海道 シマフクロウ通信

特定非営利活動法人 北海道シマフクロウの会 機関誌

第31号



コミミズク
海岸に近い荒地でハンティング
(撮影 田村康教)



エゾフクロウ
枝葉をよけて飛行する



シマフクロウ
広い空間のある
川面を飛行

シマフクロウの生態

フクロウ類の飛び方パート2

シマフクロウ保護・研究家 山本純郎

会報18号でも紹介しましたが、今回も飛び方について書きたいと思います。フクロウ類には250種あまりのたくさんの種類があって、日本だけでも12種類が記録されています。飛翔は音もたてずに飛ぶ種類が大半です。その中で最も軽々と無音で飛翔するのが、メンフクロウの仲間です。日本ではヒガシメンフクロウが西表島で一度確認されています。残念ながらこのヒガシメンフクロウの飛翔は見えていませんが、親戚にあたるメンフクロウは見たことがあります。Barn Owl (ナヤフクロウ) と呼ばれ文字通り納屋でよく営巣するフクロウです。なぜ納屋が多いかというと納屋に付きものの

ネズミがいるからです。このメンフクロウの飛翔は、無重力で浮かんでいるかのようにフワフワと飛行し、サッと地上に降りるとネズミを掴んでいます。これに近いのがコミミズクとトラフズクです。大きさもメンフクロウと変わりません。どちらも同じようなハンティングスタイルです。またこの2種類は渡りも行います。アオバズクも渡り鳥ですが、前記の種より軽々と飛行することはないですが、飛行速度は速く方向転換も俊敏です。英名はHawk Owlと呼ばれるとおり、小型の鷹のようです。コノハズクの仲間は3種いますが、直線的に飛行します。飛行速度はあまり速くないです。エゾフク

ロウの尾羽は長く翼は短くて幅が広いです。この形態のフクロウは狭い林の中でも小枝を縫ってスイスイと飛行することができます。大型のシマフクロウは、はっきり言って飛ぶのは下手です。長距離の飛行は滑空と羽ばたきで、見ていけば優雅ですが、ちょっと狭いところでは、翼をかなり枝等に当てています。だからシマフクロウは広い空間のある原生林を好むわけです。フクロウ類の飛び方は棲んでいる環境、餌の獲り方で違いが現われます。

もうすぐ標識調査が始まります。今年もたくさんの幼鳥が生まれるといいです。



事務局便り

●今回は、コロナ禍の状況に鑑み、シマフクロウ保護活動支援金贈呈式・記念講演会等の開催に代えまして、受贈者のうちお三方から、日頃のシマフクロウ保護活動の状況等についてご寄稿をいただきました。

●賛助会員・寄付を募集しています

当会の活動趣旨にご賛同いただける法人・個人の皆様の賛助会員ご入会とご寄付を募集しています。

当会のホームページから手続きができるようになっておりますので、ぜひご覧ください。

【認定NPO法人北海道シマフクロウの会 事務局】(担当:米谷・久保木)

〒060-8640 札幌市中央区大通西3丁目11番地 北洋ビル6階 (株)北海道二十一世紀総合研究所内 TEL 011-231-8681 FAX 011-231-8683

URL: <https://hokkaido-shimafukurou.org/> E-mail: info@hokkaido-shimafukurou.org



写真: 山本純郎

